令和元年（2019 年）
12 月 25 日（水）
第6号

# 教育委員会たより

シャイニング

文　責
伊平屋村
教育委員会
金子　智彰

## 盛大に開催!!
## 令和元年度「伊平屋村　島発ち発表会」

「十五で島発ちを迎える子ども達が島を出て困難に出会った時、それを乗り越えるための学校・家庭・地域での取り組みを目的とした「伊平屋村学力向上推進委員会実践発表会」が、十二月六日・七日の両日、伊平屋村離島振興総合センターにて開催されました。

取組みの目標は、「幼児児童生徒一人一人に確かな『人間力』を身に付けさせる」ことです。

初日の午前中は、各学校において、授業参観を実施し、午後は特別講演が行われました。二日目は、一年間の充実した発表会となりました。

### 十二月六日「特別講演」
演題　今の私が在るのは・・・
～オリンピック舞台までとその後の経験を通して～
講師　元ウエイトリフティングオリンピック選手
吉本　久也　氏

吉本氏による特別講演は「小中学校時代における東村での取組」「ウエイトリフティングとの出会い」「沖縄県ウエイトリフティング協会の競技普及」について三本柱で進められました。

小中学校時代「肥満解消」から始まった英語ラジオ講座、砂浜千五百メートル走等の朝の活動から県砲丸投げ優勝に繋がった話は、子ども達の興味をひき、それぞれ今の自分と比較しながら聞いていました。

また、地域の風土、人材との出会いを大切にしていくことの重要さを再確認できた機会となりました。また、私たち大人が子どもの可能性をどのように引き出して高めていくかが問われ、考えさせられる時間となりました。結びの「継続は力なり」や「感謝」という二つのキーワードは、伊平屋村の人材育成に向けた方向性を示唆する言葉となりました。

---

【第一部】 9：00～

| | | |
|---|---|---|
| 1 オープニング | お話・作文披露（伊平屋小・野甫中） | |
| | 津田啓太・桃原陸・髙田大空 | |
| 2 開会のことば | 学推副委員長 | 名嘉　丈祝 |
| 3 主催者あいさつ | 委員長 | 東恩納　吉一 |
| 4 激励のあいさつ | 村　長 | 伊礼　幸雄 |
| 5 伝統文化学習講師紹介 | | |
| 6 活動報告 | | |
| ①教育委員会 | 指導主事 | 金子　智彰 |
| ②学校部会 | 伊平屋小 | 米村　洋志 |
| ③家庭地域部会 | 伊平屋中 | 名嘉　利通 |
| ④島発ち推進事業研修報告 | 野甫小学校 | 泉大陽 |

### 十二月七日　学力向上に向けた取組発表
### 島発ち発表会　第一部

表現豊かに堂々とした津田啓太さんのお話、島発ち教育実践事業の体験談を今後の成長に生かしていくという決意を表した桃原陸さん、髙田大空さんの作文披露から始まった島発ち発表会オープニングでした。

活動報告では、学校・地域の現状を基にしたキャリア教育を踏まえた取組（東大塾、東大訪問・交流、デイズニー研修、伝統文化学習の日等）や機能充実による学力向上（要請授業、ライフスキル教育、社会教育との連携強化、村出身高校生への支援等）についての報告が行われました。

平屋村を背負って立つ島の宝である子ども達に「人間力」を学校・家庭・地域が役割を自覚し本気になって、将来の伊十五歳までに身につけさせておくことが大人に課せられた使命という強いメッセージが述べられました。

学校部会では、「読み取る力」「伝える力」「学習規律」での三校共通事項を基とした各学校の実践例を中心に報告があり、家庭地域部会からは、「島発ちを支える環境づくり」と称して、重点実践事項の「あいさつ運動」「地域人材の活用・リスト作成」での成果と課題、その他、地域と連携した取組等の紹介がありました。

島発ち推進事業報告では野甫小学校六年泉大陽さんが、東大訪問学び&交流、デイズニー研修で得たものを「島外と島のマナーの比較を通した提案に首を大きく頷く姿が数多く見られました。

### 【講演を聞いての感想の抜粋】

○子ども達が自分の夢を見つけ、目標を立て、自分の可能性を伸ばしたいための自己マネジメントは、とても大切であると感じました。「継続は力なり」「感謝の心」「早寝早起きと朝ご飯」という習慣化することの大切さや、目標に向かって挑戦する素晴らしさ、失敗してしまったときも周りの支えや自分の強さを信じることなど、とても勉強になることばかりでした。

○大人がその気になれば、伊平屋村でも何か出来そうな感じがしました。地域のサポートが重要だと感じました。

# 島発ち発表会の様子

IEDCP 英語デイキャンプ

海外短期留学報告

**講評：玉城　きみ子　氏**

前泊子ども会活動報告

学校部会 活動報告

島発ち推進事業研修報告

オープニング（お話）

家庭・地域部会 活動報告

教育委員会活動報告

【第２部】　～11:00

1　IEDCPキャンプ報告
2　海外短期留学報告
3　子ども会活動報告（前泊）
4　講評　沖縄県教育庁
　　教育長職務代理　玉城　きみ子氏
5　閉会のことば
　　学推副委員長

第二部では、伊平屋英語デイキャンプや海外短期留学の報告が英語を取り入れて行われました。「子ども会活動報告」では、年間を通した活動と前泊地区「未来塾」での学習成果の一部が紹介され、「かぎやで風」（三線と踊り）は観客を魅了することとなりました。子どもたちの充実した活動が感じられる発表内容は、多くの方々から賞賛の言葉をいただきました。

講評の玉城きみ子氏からは、「『生徒の期待に応えて人間のモデルとなる』教師の役割」、本村の「『社会に開かれた教育課程』の先取り実践」への賞賛、また、今後への期待として村の課題でもある「言語環境作り・言語活動の充実」に向けた手立て等、教師・児童の将来を見据えた助言をいただくことができました。

## 【島発ち発表会参観感想の抜粋】

○日々の中でも学びは沢山あるんだなあと、改めて実感しました。「知らないことに気づくこと！」まさにその言葉は目から保護者と児童生徒の必要があると思いました。

○しかし解わるたし子たらウ学び続ける人になっても学び続ける事が大切だと思います。

○「『あいさつ』の定着、少しずつできるようになってきたと思います。

○待ったしるのだろうか？」と思うところは様々あります。

○課題も伝わりすぎ、巣立って村の教育の方向に教員・伊平屋村民体育館では、二日間「展示発表会」が開催されました。

○泊まりの組体験を通した取組の充実が作品からも感じられました。

○象区残発表といった報告だけでは、伊平屋村の学校・家庭・地域・行政など、多くの方々の協力の下での展示物は、日々の取組のよさとその成果、作り手の工夫や持ち味、食品個性が十分に表れた素晴らしいものばかりでした。また、食品コーナーでは、それぞれの食材を工夫した調理品が紹介され、来場した方々の参考となるものでした。

○本日の部の表態度が素晴らしかったです。

○各学年の発表を聞いて、素晴らしい発表でした。

○思い出に残ることは、「伊平屋っ子の学びに向かう姿勢」の発表会で生徒が数年にでなすべての児童生徒が最高のパフォーマンスを発揮できるように、教育委員会の方々にも今後にに期待したいです。